

4 気 象 (平成21年1月~12月)

1月：冬型の気圧配置は長続きせず、気温は高く推移した。前線や低気圧の影響を受けやすく、月末には大雨となり、練馬では31日に61mmの降水量を観測した。また月合計で143.5mmとなり、いずれも1月として昭和51年1月の観測開始以降、歴代1位の記録となった。東京（大手町）の月平均気温は平年より高く、月間日照時間は平年並、降水量は平年よりかなり多くなった。

2月：上旬は、冬型の気圧配置となる日や高気圧に覆われる日が多く、概ね晴れたが、中旬以降は、短い周期で低気圧が日本付近を通過し、天気は数日の周期で変わった。大陸からの寒気の南下が弱かったことや低気圧の通過に伴う暖かい南風の影響で、高温となった。14日は練馬で最高気温が24.4℃を記録し昭和52年2月の観測開始以降、歴代1位の記録となった。東京（大手町）の月平均気温は、平年よりかなり高く、月間日照時間は平年より少なく、月降水量は平年並となった。

3月：東京のさくら（ソメイヨシノ）の開花を21日に観測した。平年より7日早く、昨年より1日早くなった。天気は概ね数日の周期で変わった。前半は寒気の南下が弱く、高温で経過した。後半は、暖かい南風が入り顕著な高温になった後、一転し強い寒気が南下し顕著な低温となり、寒暖の変動が大きくなった。東京（大手町）の月平均気温は平年より高く、月間日照時間と月降水量は平年並となった。

4月：東京のさくら（ソメイヨシノ）の満開を2日に観測した。平年より3日早く、昨年より6日遅くなった。月前半を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多く、日照時間がかなり多くなった。気温は、3月末からの低温が続いたものの、その後は高温で推移した。下旬には強い寒気が南下して低温となり、気温の変動が大きくなった。

5月：天気は周期的に変わった。上旬と下旬には低気圧が本州の南岸をゆっくりと進んだため、天気のぐずついた時期があり、東京（大手町）の月降水量は平年よりかなり多くなった。また、気温は平年よりかなり高く経過し、月間日照時間は平年より少なくなった。

6月：日本の南海上に停滞した梅雨前線の影響で、曇りや雨の日が多くなった。気温は、前半はやや低い日が多く、後半は、晴れて暖かい空気に覆われ高く推移した。東京（大手町）の月平均気温は平年より高く、月間日照時間は平年より少なく、月降水量は平年より多くなった。

7月：関東甲信地方は7月14日に梅雨明けした。平年より6日早く、昨年より5日早くなった。梅雨前線が本州付近に停滞し、曇りや雨の日が多くなり、日照時間は、上旬と下旬で平年より少なくなった。気温は、上旬か

ら中旬にかけて平年より高く推移し、下旬は、寒気の流入、曇りや雨の天気により一時的に低くなる日もあったが、概ね平年並みだった。

8月：太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱かったため、気温は平年を下回る日が多くなった。特に、月前半は、曇りや雨の日が多く、日照時間は少なく推移した。また、10日は台風第9号、31日は台風第11号の影響により、両日とも大雨となった。東京（大手町）の月平均気温は平年より低く、月間日照時間は平年より少なく、月降水量は平年より多くなった。

9月：秋雨前線の活動が弱く、高気圧に覆われたため、晴れの日が多くなった。降水量が少なく、日照時間が多くなった。気温は上旬と中旬は寒気が南下した影響で、平年に比べて低く経過した。父島付近を北東に進んだ台風第14号により、19日に三宅島では北北東21.6メートルの非常に強い風が吹いた。東京（大手町）の月平均気温は平年より低く、月間日照時間は平年より多く、月降水量は平年より少なくなった。

10月：月を通じて、天気は概ね数日の周期で変わったが、上旬には台風第18号が本州を縦断し、下旬には台風第20号が関東の南を通過したため、伊豆諸島を中心に暴風や大雨となった。これらの台風の影響により、月降水量は多くなった。気温は、月のはじめと中旬後半から下旬にかけては平年を上回った一方、上旬後半から中旬前半にかけては寒気が流れ込んだ影響で平年を下回る日があった。東京（大手町）の月平均気温は平年より高く、月間日照時間と月降水量は平年より多くなった。

11月：2日夜、東京地方に「木枯らし1号」が吹いた（昨年と比べて1日遅い）。西高東低の冬型の気圧配置となり季節風が強まった。月を通じて天気は概ね数日の周期で変わった。上旬には高気圧に覆われて晴れの天気が続いたが、中旬以降は次々に通過する低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。東京（大手町）の月平均気温は平年より高く、月間日照時間は平年より少なく、月降水量は平年より多くなった。

12月：19日、東京で初霜と初氷を観測した。初霜は平年より5日遅く、昨年より4日遅くなった。初氷は平年より8日遅く、昨年より8日早くなった。月前半は、数日の周期で天気が変わり、中旬には、本州付近を通過した低気圧の影響で、伊豆諸島を中心に大雨となった。下旬には、強い寒気が南下したため日本付近は冬型の気圧配置となり、寒暖の変動が大きくなった。東京（大手町）の月平均気温と月間日照時間は平年並、月降水量は平年よりかなり多くなった。

（調査：東京管区気象台技術部技術課）

気温・降水量（平成21年）

区分	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
月平均気温	(°C)	5.6	7.0	9.5)	15.2	19.8	22.4	26.1	26.5	22.7	17.9	12.2	7.8	16.1
準平年値	(°C)	4.5	5.1	8.2	13.9	18.4	21.7	25.2	26.9	23.0	17.2	11.7	6.9	15.2
月平均最高気温	(°C)	10.0	11.6	14.6)	21.3	24.5	26.8	29.9	31.0	27.0	22.3	16.5	12.2	20.6
準平年値	(°C)	9.2	9.7	12.8	18.7	23.2	25.6	29.2	31.1	26.6	21.3	16.1	11.7	19.6
月平均最低気温	(°C)	1.8	2.9	4.9)	10.3	15.8	19.0	23.1	23.1	19.3	14.4	8.5	4.4	12.3
準平年値	(°C)	0.4	1.0	4.0	9.3	14.1	18.2	21.8	23.6	19.9	13.7	7.9	2.8	11.4
月降水量	(mm)	143.5	44.5	85.0)	132.5	248.5	185.5	75.5	198.5	36.0	290.5	140.0	75.5	1655.5
準平年値	(mm)	42.6	60.5	121.3	122.6	122.5	165.4	178.9	177.0	220.4	156.0	91.5	32.0	1490.8

注：(1) 観測地は、東京管区気象台練馬地域気象観測所（豊玉上1丁目武蔵高校内）。

(2) 気温の観測は1～24時の毎正時に行う。平均気温はこれを平均したもの。項目の「平均」は、一日の平均気温、最高気温、最低気温をそれぞれ年または月で平均した数値である。

(3) 左向き括弧が付いた値（例「9.5）」は、準正常値で、統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、許容する資料数を満たす値。

(4) 項目の「準平年値」は昭和54年～平成12年の22年間の観測値を平均した数値である。

調査：東京管区気象台技術部技術課